

# 音楽的な見方・考え方を働かせる鑑賞の授業づくり

## ～授業実践からの考察と今後の課題～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（音楽）

学習指導要領において音楽科は、音楽的な見方・考え方を働かせた学習が求められており、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることが挙げられている。具体的な授業において、どのような手立てを行うことが、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることに繋がるのかを考え、授業実践を行い、その結果を考察した。

「テクスチャ」という要素の知覚にあたり、楽曲の声部ごとに音源の試聴を行うことで各声部を知覚できると考えたが、生徒の注目した要素が具体的に何なのか、楽曲を構造的に聴いているかの判断が難しいことが課題となった。また授業内の意見交流において、言語のみでは楽曲の具体的な箇所を示すことに限界があることが課題となった。そこで、歌う・数える・声部を抽出する等の活動を取り入れることで構造的に聴くことを促し、ワークシートの記述からその効果を実感した。また、楽譜を掲示することで視覚的理解を促し、意見交流が行いやすくなることを実感した。

授業実践を通して得られた成果や課題について、今後も実践と考察を続けていく所存である。